

視聴覚教育メディア論

担当教員 翁長 直樹

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

デジタルメディアの普及、情報化の進展にともない博物館・美術館におけるメディアの利用内容、形態も変化しつつある。本講座では音声から文字、活字、映像そして今日のインターネットまで、メディアの歴史的な変遷、その思想的背景について学ぶ。特に今日のもっとも重要な映像を中心に学び、視聴覚的発想を理解する。また現代の博物館・美術館の役割を考える。

【授業の展開計画】

メディアの歴史と思想的背景について学ぶ
 メディアの種類と構造、役割について理解する
 現代社会におけるメディアの現状と課題について新聞等を活用して学ぶ
 博物館・美術館の歴史と現状を理解する
 博物館・美術館におけるメディア利用の役割と事例について学ぶ
 特に今日最大のメディアである映像を毎回視聴し、理解を深める

- 1 オリエンテーション
- 2 メディアとは何か
- 3 メディアの変遷 文字 図像 音声 写真 映像
- 4 メディア論の現在 マクルーハンを中心に
- 5 メディアを読む 主に写真、テレビ、映像を中心に
- 6 写真メディアについて
- 7 テレビメディアの今日
- 8 映像メディアについて (1) ドキュメンタリー
- 9 映像メディアについて (2) 教育的映像
- 10 映像メディアについて (3) コマーシャル
- 11 映像メディアについて (4) 映画
- 12 映像メディアについて (5) テレビドラマ
- 13 現代メディア社会の現状と課題

授業の形式：講義、視聴ノート等。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

授業毎の視聴ノート、レポートによる。

【テキスト】

特にテキストは指定しない。

【参考文献】

関連分野の参考書リストは講義中に配布する。

博物館概論

担当教員 知念 勇

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

博物館法において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して教育的配慮のもとに、一般公衆の利用に供する社会教育施設として位置づけられている。

博物館及び博物館活動を概念的に理解するために、博物館とは何か、博物館法の趣旨、博物館発達史、などとともに、博物館の基本的な機能である資料収集・整理保管・調査研究・教育普及の有機的関連について講義する。

【授業の展開計画】

- 第1週 博物館とは
- 第2週 博物館の種類
- 第3週 欧米の近代博物館発達史
- 第4週 日本の近代博物館発達史
- 第5週 沖縄の博物館発達史
- 第6週 博物館法の趣旨①
- 第7週 博物館法の趣旨②
- 第8週 博物館の基本的な機能
- 第9週 調査研究
- 第10週 教育普及
- 第11週 展示論①
- 第12週 展示論②
- 第13週 博物館と生涯学習
- 第14週 これからの博物館
- 第15週 学芸員制度
- 第16週 テスト

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

テストと出席状況を参考にして評価を行う。

【テキスト】

なし、講義内容と関連する資料をコピーして随時提供する。

【参考文献】

加藤有次他編『博物館学概論』新版博物館講座 1 雄山閣出版 平成12年、古賀忠通他編『展示と展示法』博物館学講座 7 雄山閣出版 1990年、諸澤正道編『開かれた博物館を目指して』国立科学博物館 平成3年、『新しい時代の博物館制度の在り方について』これからの博物館の在り方に関する検討協力会議 平成19年

博物館学史

担当教員 比嘉 明子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

博物館とはどんなところなのか。博物館の歴史や博物館の表に見える活動を含め、保存や研究といった博物館の土台を支える学芸員の仕事や博物館に関する人びと、場所の果たす役割について学び、内部からの視点、学芸員に必要な視点を養う。

【授業の展開計画】

博物館の成り立ちや役割、機能について、博物館の活動に即しながら概観する。学芸員の働きだけでなく、博物館に関わる人びとの仕事についても紹介し、博物館という場所がどのような活動を行い、展開しているところなのかを学ぶ。博物館学の流れにも触れながら、博物館の抱えている問題点についても考えていく。

週	授 業 の 内 容
1	講義概要説明
2	博物館のはじまり (1) - 西洋
3	博物館のはじまり (2) - 日本/沖縄
4	博物館学とは
5	博物館の役割 (1) - 収集/保存
6	博物館の役割 (2) - 展示
7	博物館の役割 (3) - 教育普及
8	博物館に関わる人びと (1) - 学芸員
9	博物館に関わる人びと (2) - 博物館のスタッフ
10	博物館に関わる人びと (3) - ボランティア/来館者
11	博物館という場 (1) - 管理・運営
12	博物館という場 (2) - 建物・施設
13	博物館という場 (3) - 地域
14	博物館をめぐる問題
15	博物館のこれからを考える
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

普段から博物館や美術館、資料館等へ足を運び、関心を持っておくこと

【評価方法】

出席状況、講義内容に関するコメント、中間・期末レポートにより総合的に評価する

【テキスト】

講義ごとにプリントを配布する

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する

博物館学評論

担当教員 比嘉 明子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

博物館について主に来館者の視点から概観し、多角的に博物館を捉えることを目指す。博物館の抱える問題点や課題等についても言及し、これからの博物館がどうあるべきかを実際の博物館体験を通して、考察する。

【授業の展開計画】

博物館体験は私たちに何をもたらすのだろうか。来館者がどのように博物館を捉えているのか、博物館体験を記憶しているのか、何を期待しているのか等、来館者の視点や博物館での行動を学び、博物館を評価する基準を考える。グループで実際に博物館へ行き、博物館を取り巻く状況や問題点、課題等についても考察する。

週	授 業 の 内 容
1	講義概要説明
2	はじめに：博物館を評価する
3	博物館へ行く前に（1）
4	博物館へ行く前に（2）
5	博物館へ行く前に（3）
6	博物館の中で（1）
7	博物館の中で（2）
8	博物館の中で（3）
9	記憶される博物館（1）
10	記憶される博物館（2）
11	〔グループワーク〕博物館を評価する基準を考える
12	〔グループワーク〕博物館見学
13	〔グループワーク〕発表（1）：博物館体験・評価
14	〔グループワーク〕発表（2）：博物館体験・評価
15	おわりに：博物館体験を創造する
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

普段から博物館や美術館、資料館等へ足を運び、関心を持っておくこと

【評価方法】

出席状況、講義内容に関するコメント、調査／発表、中間・期末レポートにより総合的に評価する

【テキスト】

講義ごとにプリントを配布する

【参考文献】

『博物館体験 学芸員のための視点』ジョン・H・フォーク／リン・D・ディアーキング・著／高橋順一・訳／雄山閣／1996年

博物館教育論

担当教員 前田 一舟

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

博物館は、教育基本法の改正に伴い生涯学習の理念等が盛り込まれ、その実現を図る為、現代社会のニーズに対応した教育活動の場が進められようとしている。そのため、博物館学芸員には調査研究に裏付けられた高度な専門性とその学習への活用が強く求められている。

本講義では、博物館における教育とは何かを県内外の事例から学芸員の果す役割等について資質を養うことをねらいとする。

【授業の展開計画】

地域に根ざした博物館と学芸員の果すべき役割は、地域とのリレーションシップづくりが不可欠であり、知的発見の場として、さらに学習の成果の活用という教育活動が重要視されなければならない。講義で取り扱う内容は、知的発見の場を設定する為に欠かせない調査研究をはじめ、その成果をもとに、どのような手法で学校教育と生涯学習等へ活用できるか、学習を通してどのように地域産業に結びつけられるかを博物館の現場から事例を取り上げていく。

週	授 業 の 内 容
1	講義概要説明及び学生からみた博物館のイメージと印象
2	博物館における教育普及活動とは
3	博物館と教育普及活動の調査研究その1
4	博物館と教育普及活動の調査研究その2
5	郷土教育とテーマの抽出の方法
6	県内の博物館施設における教育普及活動
7	県外の博物館施設における教育普及活動
8	利用者の声とボトムアップのビジョンづくり
9	博物館のパートナーシップづくりの手法
10	郷土教育と博物館のリレーションシップづくり
11	郷土教育と博物館のリレーションシップづくり
12	生涯学習と博物館のリレーションシップづくり
13	教育から考えるミュージアム産業
14	市民主導と市民協働の博物館づくり
15	博物館と教育のこれから
16	テスト

【履修上の注意事項】

講義の進行によっては博物館に関する日本の最新報道からトピックの順序を変えたり、一部変更することがある。講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語）は、心得ておくこと。また、課題などの提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けないので十分に留意すること。

【評価方法】

本学の学部履修規定第16条に基づき、100点を満点とし、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可として評価を行なう。なお、採点の基準は、講義への出席に60点、レポート及び発表等40点とし、詳細は初回講義の冒頭で説明する。

【テキスト】

講義中ではテーマにまつわるレジュメや論文、資料等を配布する。また、ビデオやスライド等も活用して情報の提供を図る。

【参考文献】

安村敏信『美術館商売』勉誠出版2004年
 塚原正彦『ミュージアム集客・経営戦略』日本地域社会研究所1999年
 小菅正夫『<旭山動物園>革命』角川書店2006年

博物館経営論

担当教員 稲福 政斉

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期前半

授業形態 一般講義

単位数 1

【授業のねらい】

博物館の果たすべき役割は、生涯学習への社会の意識の高まり、情報化の進展、諸技術の発達等にもない、昨今著しく変化を遂げている。このような状況をふまえ、調査研究、資料の収集や保存、展示、教育普及などに関する専門的な知識や技術はもとより、社会の動向を的確に捉え、なおかつ経営的視点をそなえたバランス感覚に富む学芸員の養成が必要とされる。本講義では、今日の学芸員に求められる博物館経営に関する基本的な考えかたや基礎的知識を学び、学芸員としての資質を養うことをねらいとする。

【授業の展開計画】

博物館の現状を見据えつつ、よりよい博物館経営の方向性を導き出すにはどのような方策が考えられるかというテーマのもとに授業を進めていく。

取り扱う内容は博物館経営の基礎を中心に、おおむね次に掲げるとおりであるが、博物館経営の実践例や、今日の博物館の実情などについても可能な限り取り上げ、講義内容に随時反映させていく予定である。

1. 博物館経営とは
2. 現代社会における博物館の役割
3. 博物館の規模と経済的経営の形態
4. 博物館経営と指定管理者制度
5. 博物館倫理と博物館経営
6. よりよい博物館経営のために

【履修上の注意事項】

本講義では博物館経営の理論についてはもとより、情報を的確に処理してそれをもとに自ら考え、理解を深めるという、学芸員に求められる資質を養うこともあわせて目的としている。そのため、板書やレジュメでは要点のみを示し、講義内容の詳述は行わないので、重要と思われる内容は各自でノートなどにまとめ、十分に理解することを要する。また、課題等は締切後の提出を一切受付けないので、提出期限は厳守するよう留意されたい。

【評価方法】

出席状況と課題（レポート）の内容などを勘案し、成績評価を行う。なお、詳細は第1回目の講義冒頭において説明を実施する。

【テキスト】

講義の冒頭に、レジュメや資料等を配布する。

【参考文献】

- 全国大学博物館講座協議会西日本部会 編 『概説 博物館学』2002年 芙蓉書房出版
- 水藤真 『博物館を考える－新しい博物館学の模索』1998年 山川出版社

博物館経営論

担当教員 一翁長 直樹

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

昨今博物館・美術館の経営の在り方をめぐって、国や地方自治体では様々な試みがなされている。例としては、独立行政法人化や指定管理者制度の導入等である。

本講義においては、このような昨今の情勢を踏まえて、今日の学芸員に必要とされる博物館経営に関する基本的な考えかたや基礎的知識を学び、また実際の博物館・美術館の経営の事例を研究し、学芸員としての資質を養うことをねらいとする。

【授業の展開計画】

本講義は、現在の博物館の管理・運営の在り方等、博物館の現状を見据えながら、学芸員として主体的に博物館経営にかかわり、どのようにすれば博物館が良い方向へ行くかを想定して進めていく。

現在の博物館学経営の基礎的な知識を習得し、実際の事例を取り上げ、博物館建設の理念・方針、目的と経営形態を学習する。

博物館管理・運営の課題を抽出し、研究する。概要は以下の通りであるが、欧米や日本の博物館・美術館の現状をより多く紹介し、学習の参考にしたい。

1. 博物館経営論とは
2. 博物館の経営と博物館業務内容
3. 博物館の設立方針とミュージアム・マネジメントについて
4. 指定管理者制度及び新しい経営形態
5. 日本及び欧米の博物館経営の事例
6. 博物館の現状とよりよい経営のために

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席状況と課題（レポート）の内容などを勘案し、成績評価を行う。第1回目の講義冒頭において授業計画を提示する。

【テキスト】

レジюмеや資料等を配布し、授業の中で参考文献等を紹介する

【参考文献】

博物館経営論 新版・博物館学講座12 雄山閣出版
新しい博物館学 全国博物館学講座協議会西日本部会(編集) 芙蓉書房出版

博物館資料保存論

担当教員 大湾 ゆかり

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う。

博物館で取り扱う「もの」資料を適切に保存する上で、資料の材質、保存環境の整備、複製作成、修復作業にいたるまで、基本となる考え方や処理方法等を紹介する。また、資料の取り扱い方や保存容器等の作成方法についても学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	博物館における資料保存の意義
2	博物館資料の保存環境 1 資料保存の諸条件とその影響（温湿度、光、振動、大気等）
3	博物館資料の保存環境 2 生物被害と I P M（総合的有害生物管理）
4	博物館資料の保存環境 3 災害の防止と対策（火災、地震、水害、盗難等）
5	資料の保全 1 状態調査・現状把握
6	資料の保全 1 状態調査・現状把握
7	資料の保全 2 資料の材質
8	資料の保全 2 資料の材質
9	資料の保全 3 資料の保存処置・修復
10	資料の保全 3 資料の保存処置・修復
11	資料の保全 4 資料の複製・保護処置
12	資料の保全 5 資料の梱包と輸送
13	環境保護と博物館の役割 1 地域資源の保存と活用（エコミュージアム等）
14	環境保護と博物館の役割 2 文化財の保存と活用（景観・歴史的環境を含む）
15	資料保存論のまとめ
16	

【履修上の注意事項】

受講者数によって実習等を行うこともあり、道具や材料の準備を要することあり。

【評価方法】

1. 出席日数が3分の2に満たない者には、評価は与えない。
2. 出席状況と毎講義のアンケート及び課題（レポート）の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

- ・石崎武志『博物館資料保存論』（K S 理工学専門書）2012、講談社

【参考文献】

- ・東京文化財研究所編『文化財の保存環境』2011、中央公論美術出版
- ・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』2002、芙蓉書房出版

博物館資料論

担当教員 後田多 敦

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

博物館活動の中核である資料について、収集・整理・保管・管理・研究・展示という活動の基本的な技術を修得しながら、その技術の裏付けとなる方法論を獲得することを目標とします。また、資料の取り扱いを学ぶことで、「モノ」を通して博物館の社会における存在意義や役割と学芸員の職務について考え、仕事のなかで自ら技能と職業意識を高めることのできる姿勢を習得することも目標とします。

【授業の展開計画】

資料の収集・保存・活用などを具体的な実例を用いながら講義します。博物館は自然系・人文系・美術系など多様で、そのタイプによって資料もその扱いも大きく異なりますが、ここでは人文系・美術系の資料を中心に進めます。目的を持った資料収集や資料を使った研究・展示における資料の問題など、具体的な段階や局面における資料についての議論や活用方法を講義します。また、地元の具体的な事例を取りあげることで、現場で実際に直面するだろう課題を身近に感じられるようにします。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・さまざまな博物館
2	沖縄における博物館
3	博物館と資料Ⅰ
4	博物館と資料Ⅱ
5	博物館と資料Ⅲ
6	博物館と資料Ⅳ
7	資料の収集
8	資料の整理
9	資料の保存
10	資料と調査研究Ⅰ
11	資料と調査研究Ⅱ
12	資料の活用Ⅰ（展覧会と展示）
13	資料の活用Ⅱ（展示・公開）
14	博物館と資料を考える（まとめⅠ）
15	博物館はどうあるべきか（まとめⅡ）
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

博物館に限らずいろいろな場所を訪ねて実際に「モノ」を見て、資料や展示について考える機会を多く持つようにしてください。

【評価方法】

出席とレポート（1～2回）、試験で総合評価します。
20分以上の遅刻は欠席扱いとします。

【テキスト】

なし。必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新しい博物館学』（芙蓉書房出版、2008年）
加藤有次他編『博物館資料論（新版・博物館学講座5）』（雄山閣出版、1999年）
水藤真著『博物館を考える』（山川出版社、1998年）

博物館情報・メディア論

担当教員 浦本 寛史

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

博物館や美術館に求められるものは、まず、鑑賞の場・空間の提供である。そして、歴史や芸術、文化を教育する場の提供でもある。その2つの効果的な提供（鑑賞と教育）を実施するには「伝える」という手法が目的別に必要になる。そのため、メディアの効果・効率のよい利用法を習得することは不可欠である。本科目は、「伝える」という原点に立ち、高齢化、少子化、生涯学習という時代にそったメディアの活用と役割を理解することができる。

【授業の展開計画】

第1回	講義	授業の内容確認とメディアの変遷
第2回	講義	メディアとは何か、情報とは何か
第3回	講義	博物館におけるメディアの意義、情報の意義
第4回	講義	メディアとは何か、情報とは何か
第5回	講義	情報教育の意義と重要性
第6回	講義	博物館活動において情報化の役割
第7回	講義	博物館の機能と扱う情報（データベース化とドキュメンテーション保管）
第8回	講義	博物館の機能と扱う情報（デジタルアーカイブの現状と課題）
第9回	講義	博物館における情報発信と管理（インターネットの活用と問題点）
第10回	講義	博物館における情報発信と管理（メディア制作の目標設定と評価法）
第11回	講義	情報機器の活用（必要とされる知識と技術）
第12回	講義	コミュニケーションを支えるICT
第13回	講義	知的財産権（著作権と特許）
第14回	講義	個人情報保護（肖像権）
第15回	講義	権利処理の方法

【履修上の注意事項】

学芸員資格取得希望者を想定した授業構成です。

【評価方法】

中間テスト、最終テスト、レポート、出席状況などを鑑み、総合的に評価する。

【テキスト】

講義に必要なテキスト・資料等は適宜配布する。

【参考文献】

博物館経営・情報論（放送大学教材）、新しい博物館学（芙蓉書房出版）、情報社会の文化（東京大学出版会）、情報・メディア・教育の社会（東信堂）など

博物館情報論

担当教員 稲福 政斉

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期後半

授業形態 一般講義

単位数 1

【授業のねらい】

今日の博物館において、学芸員には、資料に関する膨大な情報を多くの人々が有効に活用できるデータベースの構築や管理、情報提供を求められた際に的確に対応しうる技量の練磨、市民に対して知的、美的な興味を喚起させる情報発信の手法への習熟など、情報の収集、整理、活用における広汎かつ高度な知識と技術に関する理解が不可欠である。本講義は、博物館情報のもつ意義を考えるとともに、事例の調査と考察により、博物館における情報の提供と活用の方法などについて学ぶことをねらいとする。

【授業の展開計画】

授業は、講義とグループ学習により構成する。

講義では博物館における情報についての基本的な考え方や知識を中心に、おおむね次に掲げる内容を取り扱う。

1. 博物館情報論とは
2. 博物館における情報の意義とその種類
3. デジタル情報とアナログ情報
4. 博物館における情報化の現状
5. 博物館資料のデータベース化
6. 展示におけるマルチメディアの活用
7. 博物館情報の今後

また、グループ学習では、県内外の博物館に関する情報について実際に調査してその成果を発表しあい、質疑等をお互いにその内容を検討することにより、博物館における情報発信の現状やその役割、課題点などについて考察を深める。

なお、博物館現場の今日的な実情等についても、随時授業内容に反映させていく予定である。

【履修上の注意事項】

この授業では、情報を的確に処理し、それをもとに考え理解を深めるといふ、学芸員に求められる資質の修得もあわせて目的とする。そのため、板書やレジュメでは要点のみを示し内容を詳述しない。重要と思われる箇所は各自ノートなどにまとめ十分に理解することを要する。また、グループ単位での調査、発表が中心となるので、互いにおおいに討議を重ね、また分担協力して自主的に学習を進めていく姿勢を求める。

なお、課題等は締切後の提出を一切受け付けないので、提出期限は厳守するよう留意されたい。

【評価方法】

本学の学部履修規程第16条に基づき、100点を満点とし、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可として評価を行う。

なお、評価対象は出席、グループ発表、提出物とし、採点基準については初回講義の冒頭で詳細を説明する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

毎回配布するレジュメおよび資料により、講義や実習を進める。

【参考文献】

加藤有次 他 編 『博物館情報論（新版・博物館学講座11）』1999年 雄山閣出版
石森秀三 『博物館経営・情報論』2000年 放送大学教育振興会

博物館展示論

担当教員 一翁長 直樹

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

博物館の単位取得の増に伴い、大学での博物館に関する科目にも大きな変化が出てきた。専門性を高めるねらいで、これまでよりもいっそう細やかな取り組みが望まれる。

本講座を通して実際の博物館・美術館の展示における例を数多く紹介しながら、博物館・美術館における展示の目的理念と効果が相乗的に提示できるには、いかにすべきかを学ぶ機会としたい。

【授業の展開計画】

博物館展示は収集した資料を研究・整理したのちに一般に公開されるもっとも重要な機能であり、他の大学などの研究施設と異なる「博物館機能の中核」となるものである。本講座では、「展示」の理念的な意味や歴史、技術論、シナリオ、構成などを学びながら、展示の実例を検証し、担当者として展示・公開をどうするかを考える機会にしたい。

1. 博物案展示とは何か
2. 展示対象と展示法
3. 展示設備等の効果的な使用法
4. 新しい時代の展示とは
5. 展示計画から完成まで
6. 県立美術館の特別展を例に企画から開会式、搬出まで
7. 館種別博物館活動・美術館の展示活動 下記の博物館施設等を主に紹介する。
自然史博物館 動物園 水族館
8. 歴史博物館 美術館 総合博物館
9. 現代の展示法と問題点

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席状況と課題（レポート）の内容などを勘案し、成績評価を行う。第1回目の講義冒頭において授業計画を提示する

【テキスト】

レジュメや資料等を配布し、授業の中で参考文献等を紹介する。

【参考文献】